

ホテイアオイ (2016.06~08)

《質問》

高知県での事ですが、ほとんどの産直店でホテイアオイが観賞用に安価で販売されています。一般の方が小遣い稼ぎに繁殖させて出荷しているため、野外に放流することの有害性に対して非常に無頓着である状態です。このような形での拡散がかってよりも進行しているのではと、危惧しています。他県ではどうなのでしょう（井上裕靖さん／高知県南国市）。

周辺で同様な状況があればお知らせください。また、河川、池等野外での発生をみられましたら、その状況もご一報ください。ホテイアオイは増殖が非常に早く、実際捨てられた1株がもとで、富栄養化している河川や用水地ではヘクター単位で覆ってしまうまでになります。

《回答》

まとめ

- ・ 発生の情報は大阪府から山梨県まで6件寄せられています。
- ・ ホームセンターでの販売情報は3件寄せられています。

個別情報

- 大阪府南部のホームセンター等でも普通に販売されています。観賞魚販売店も同じです。葉長5~10センチ程度の小さな個体です。いつも見かけたらさっさと捨てたくなるのですが、そんなふうにも思われるとんでもない植物だとは、販売者も購入者も知らないのでしょうか。生産者の情報はわかりませんが、消費者側からいたるところに拡散しているはずですが。生ごみとして適切に処分されていればいいのですが。

松下美郎さん（大阪府羽曳野市）

ホテイアオイについては1970年代後半からしばらく、水系での大繁殖がかなり問題となり、京大雑草研でも現場の実態調査や本草の生態研究をしており、NHKや新聞社からの取材もありました。例えば、宮崎県の大淀川ではダムから上流の数haが完全にホテイアオイで埋まっていました。上流に畜産団地がある河川で水が富栄養化し、大発生が多かったと記憶しています。大阪府美浜町の寺池でも、池の半分以上が本草に覆われる状態で、私たちの調査場所でした。寺池の場合は、住民によると隣接する牛乳工場により水の富栄養化がおこったとのこと。最近ではホテイアオイはそんなに問題になってないようですね。何故なのかな。排水水質の規制が厳しくなったのでしょうか？（伊藤操子氏）

- 豊橋市内の比較的街中の池に大繁殖し、市がボートを出して除去作業をした事があります。（5~6年前ぐらい）又、家の近くの池にも2~3年前に大発生した事があります。近くに400軒ほどの団地ができた事と関係があるのでしょうか？！郊外の池に大発生した事はあまり聞いた事がありません。富栄養化との関係なのかわかりませんが、街中の池に多いような感じがします。

園部綱雄さん（愛知県豊橋市）

1970年の後半から数年間、ホテイアオイの研究に携わっていました。水の富栄養化が大繁茂を引き起こすというのは、実態調査でも水質-生育関係の試験でも証明できたとおもっています。西日本一帯を調べたときの記憶では、増殖と畜産団地からの廃水を指摘される地元の方が多かったです。団地からの排水の影響は可能性がありそうですね。(伊藤操子氏)

●睡蓮鉢を置いているのでよくその手のお店にいきますが、こちらでもホテイアオイは普通に販売されています。ミズアオイと書かれていたものも見たことがあります。発生については職場の同僚に情報を募りましたところ、2件ほどありましたのでお知らせします。

1) 山梨県甲府市内(甲府南インターの西側、笛吹川南側の支流、間門川の柏排水機場の水門付近で群生)

時期: 5-10年程度前。現状は分からない。

2) 千葉県成田市(印旛沼の東側、水産センター裏の水路や周辺の湛水地沿い)

時期: 5-10年程度前。現状は分からない。



写真: 越冬時期 (千葉県成田市)

高木圭子さん (東京都)

● 橿原市のホームページに薬師寺跡周辺の水田に植え付けたホテイアオイ開花状況の記事がありました。毎年地元の小学生が植え付けを行っているようです。

越智和彦さん（大阪府大阪市）

● わたしがよく行く、東京都稲城市のユニディ若葉台店というホームセンターでは斑入りのホテイアオイが売っていました。どういうところが生産しているのかはよくわかりません。

森田亜貴さん（東京都）

● 6、7年前にナガエツルノゲイトウの調査に印旛沼周辺に行った時、ホテイアオイの集団がナガエツルノゲイトウに圧倒されているような場所がありました。また、ホテイアオイではありませんが、昨年熊本の江津湖で見たのは、ブラジルチドメグサとボタンウキクサが蔓延しているところにナガエツルノゲイトウが侵入しつつある状況でした。こうした水草どうし、今後せめぎあいが各地で見られるようになるかもしれません。

黒川俊二さん（茨城県つくば市）

● 実は私も大学生の時、ホテイアオイを用いた水質浄化に関する研究に関わっておりました。その頃（およそ30年前）はまだ今のような温暖化条件にはなっておりましたが、つくば市周辺では、ホテイアオイは越冬することができず、毎年、池に新しい個体を導入しておりました。

一方、生まれ故郷の佐賀県では、かつてクリーク（農業用水路）一面にホテイアオイが繁茂していて、台風で増水した時には、有明海までホテイアオイが流れだし、海苔ヒビ（海苔を育てるイカダ）に絡みついて漁師さんたちが大変困っておりました。

それが、10年ほど前に帰省した時にはほとんど見かけなくなっており、不思議に思ったのですが、ホテイアオイは水面に浮いているので、すくい取りによって防除されたという話を耳にしました。

村岡哲郎さん（茨城県）

- 愛知県蒲郡市の松田池でのホテイアオイの発生を報じる記事情報を提供いただきました。
(提供者：園部綱雄さん、愛知県)

蒲郡市竹谷町の松田池で、水草のホテイアオイが大発生している。薄紫色の花が通行人らの目を楽ませている一方、周辺住民は悪臭などを理由に市へ撤去を要望した。降ってわいた問題が、関係者を悩ませている。(木村尚公)

ホテイアオイ大発生 困惑

蒲郡・松田池 悪臭 撤去に数百万円？

広さ三千平方メートルほどの池が、大きく様変わりした。水面には何百本ものホテイアオイがすき間なくびっしり。池の隣で長年倉庫を構える自営業の山崎正行さん(55)は「昨年は池の一角にしかなかったのに、ゴールデンウィークぐらいからどんどん増えた。こんなことは初めてだ」と驚く。

ホテイアオイの花は夏が見ごろ。水面に花々が咲く光景は見た目には美しいが、竹谷町区総代の坂部俊雄さん(67)は「腐ると悪臭が出る。ホテイアオイが水路をふさぎ、たまつた水が洪水のように休耕田を水浸しにした」と去を要望した。

ともあった」。農業用ため池として松田池を管理する市へ正式に撤去を要望した。

市側も困惑している。水草の除去にはボートやクレーンを使うが大がかりな作業が必要で、費用が数百万円かかりそう。農林水産課の担当者は「見積もりを取っているところ」と話すが、予算化できるかは不透明だ。

松田池には以前、禁止されている釣りをする人もたびたび現れていた。水草が生い茂った今は姿が消えた。「釣り人がいなくなったのはいいことだけど」と山崎さんは話す。

蒲郡市では同様の問題が名田池(形原町)、稲葉池(金平町)でもある。ホテイアオイは繁殖力が非常に強い。担当者は「どこからか種が流れて来るのか。頭の痛い問題です」とこぼした。

池全体を覆い尽くすホテイアオイー蒲郡市竹谷町の松田池で

